

夏の会員総会

甲陽健児は政治が嫌い!?

乾 正人 産経新聞編集長を迎えて

8月31日(土)13時～16時30分 於：ノボテル甲子園

夏恒例の今年の会員総会は次のような要領にて開催いたします。同窓の先輩、同輩、後輩、友人、知人お誘い合わせの上、ふるってご参加ください。ご家族の同伴も歓迎です。

＜第1部＞式典と講演会
(13時～14時45分)

演 題 「関西人はなぜ政治が嫌いか？」

講 師 乾 正人(62回)
産経新聞編集長



昨年末の衆議院選挙で政権が交代し、第2次安倍内閣が発足して半年あまり、7月21日の参議院選挙のことも記憶に新しいところです。同窓の皆さんにおかれまして、高いご関心をお持ちであろうと思います。今回は、こうした日本の政治につきまして、産経新聞編集長の乾正人氏をお招きしてご講演をいただきます。

乾氏からいただいた演題は「関西人はなぜ政治が嫌いか？」という刺激的なタイトル。「本当に関西人は政治が嫌いなの?」「甲陽健児は政治が嫌い?」「俺は投票に行ったで」などとさまざまなツッコミが予想されるテーマについて、約1時間ご講演いただき、その後には「質問タイム」も設けて講師へのご質問も受け付けます。

乾氏は昭和37年神戸市生まれ。甲陽学院時代は地歴部に所属。甲陽学院中高、筑波大学比較文化学類卒業後、産経新聞社に入社。新潟支局、整理部を経て、平成元年より政治部。首相官邸、自民党、民主党、外務省などを取材。平成19年から政治部長、平成23年より編集長兼論説委員。

筑波大学経営委員会委員を兼務されるほか、ニッポン放送「高嶋ひでたけの朝ラジ!」コメンテーターも務められています。ご著書に、『ジャーナリズムの情理』(産経新聞出版)、『日中の壁』(築地書館)など(いずれも共著)があります。

＜第2部＞懇親パーティーとカンントリーウエスタン

(15時～16時30分)

第2部は会場を「甲陽の間」に移して、懇親会です。今年、この会を彩っていただくのは、44回生の喜多毅さんが主宰されているカンントリーバンド「SILKY COTTONS」です。女性ボーカル3名を含む9名のメンバーからなるバンドで、「テネシーワルツ」「知りたくないの」などのスタンダードナンバーを得意なレパートリーとされています。また、大阪北新地のラウンジ「ライト・ゲージ」で定期ライブをなさっているプロです。懐かしい恩師の先生方、同窓の友人たちを囲みながら、ご寄贈いただいた清酒「白鹿」やサントリーのビール・ウイスキーと美しいSILKY COTTONSの音楽に酔いしれながら、楽しい午後の一時を過ごしましょう。今回主役のホームカミング学年は、44回(卒業50年)、59回(卒業35年)、69回(卒業25年)です。舞台への登壇と記念品の贈呈を予定していますので、是非ご参加ください。

なお、今回の総司会是高橋知裕さんです。読売テレビ「奥様情報BOX」やテレビショッピング番組でおなじみの美女です。ご期待ください。

申込方法・会費などは
最終ページ下をご覧ください!



発行所

〒662-0096 西宮市角石町3-138

甲陽学院同窓会

発行人 西村貞一

印刷所

株式会社小西印刷所
西宮市今津西浜町2番60号
TEL (0798)-33-0691

同窓会事務局専用

TEL 0798-71-4888

(月・水・金 10:00～16:00)

FAX 0798-71-4890

E-mail:

fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp

同窓会ホームページ

<http://www.koyogakuin-oba.jp>

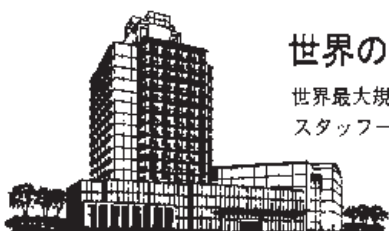
世界のホテルブランド「NOVOTEL」日本第一号

世界最大規模のホテルチェーン「アコーホテルズ」のホテルブランドの一つである「ノボテル」。
スタッフ一同 世界の「ノボテル」として、お客様をお迎えしています。



西宮市甲子園高潮町3-30 TEL.0798-48-1111

ノボテル甲子園

<http://www.novotelkoshien.com>

会 務 報 告

平成25年4月16日に行われました同窓会役員総会における議論を中心に、会務についてご報告いたします。

1 平成24年度活動報告

会報編集委員会の森口委員長から、第86号を8月7日付で、第87号を3月5日付で発行したことが報告されました。また、次号第88号から若干の紙面刷新を検討している旨が述べられました。

次に会員総会運営委員会の揚野前委員長から、昨年の8月25日に行われた会員総会について、282名の参加があったことや、収支（約23万円の支出超過）についての報告がありました。

甲陽ファン管理委員会の泥委員長からは、平成24年度の募金総額が3,368,000円であったこと（前年度より154,000円の増）、平成25年3月までの収入総額が、利息収入を含めて56,097,858円となっていること、現在まで延べ52名の在校生に一人年額20万円が支給されてきた実績などが報告されました。

2 平成24年度決算報告・監査報告

下に掲載の決算報告書が今西副会長から説明され、二宮監事、水島監事、植木監事からの監査報告を受けて、平成24年度決算が承認されました。

● 平成24年度 決算報告書 ●

[収入の部]				[支出の部]			
科 目	決算額	予算額	差引額	科 目	決算額	予算額	差引額
会 費	10,755,000	9,300,000	1,455,000	人 件 費	2,114,960	2,106,000	8,960
年 会 費	1,555,000	1,300,000	255,000	月 手 当	1,536,000	1,536,000	0
終 身 会 費	2,020,000	1,500,000	520,000	夏 冬 手 当	320,000	320,000	0
新卒入会金	1,200,000	1,200,000	0	通 勤 費	258,960	250,000	8,960
新卒年会費	2,800,000	2,800,000	0				
新卒終身会費	3,180,000	2,500,000	680,000	交 通 費	10,000	100,000	△ 90,000
				需 用 費	547,556	850,000	△ 302,444
会報広告料	30,000	60,000	△ 30,000	通 信 費	336,768	400,000	△ 63,232
総会会費収入	1,264,000	1,500,000	△ 236,000	事務消耗品費	57,748	50,000	7,748
利子収入	10,480	30,000	△ 19,520	備 品 費	9,450	100,000	△ 90,550
スラップ収入	21,600	0	21,600	IT 関 係 費	143,590	300,000	△ 156,410
フォトフレーム	30,000	0	30,000				
雑 収 入	13,500	0	13,500	会 議 費	2,354,743	2,500,000	△ 145,257
寄 付 金	0	0	0	0 会員総会費	1,495,423	1,500,000	△ 4,577
特別収入	227,955	0	227,955	役員総会費	233,436	250,000	△ 16,564
収入合計	12,352,535	10,890,000	1,462,535	理事会会費	238,983	250,000	△ 11,017
				委員会会費	210,382	300,000	△ 89,618
特別独立金繰入	0	0	0	懇 談 会 費	176,519	200,000	△ 23,481
基本金解約							
				事 業 費	3,209,643	3,690,000	△ 480,357
繰 越 金	5,726,122	5,726,122	0	甲陽だより	852,203	1,000,000	△ 147,797
				郵 送 料	1,549,322	1,500,000	49,322
合 計	18,078,657	16,616,122	1,462,535	振 替 用 紙	143,872	140,000	3,872
◎H25年3月末日現在 現預金残高明細 ＊三井住友銀行(普通預金) 9,217,506円 ＊郵 便 局(普通預金) 315,191円 ＊ // (振替通知票) 2,559,820円 ＊三菱信託銀行(普通預金) 1,297,479円 ＊手持現金 132,879円 合 計 13,522,875円 甲陽F預かり金 3,834,080円 甲陽ファンド通帳へ 円 合 計 9,688,795円 本日、会計監査の結果、 帳簿と金額に相違ないことを、ここに確認いたしました。 監 事 二 宮 一 明 印 水 島 昇 印 植 木 努 印				封 筒	188,084	200,000	△ 11,916
				記 念 品	306,940	500,000	△ 193,060
				母校後援費	140,000	200,000	△ 60,000
				地域活動費	29,222	150,000	△ 120,778
				雑 費	144,900	290,000	△ 145,100
				校 内 志	30,000	40,000	△ 10,000
				慶弔その他	21,000	100,000	△ 79,000
				振 替 料	88,980	100,000	△ 11,020
				その他 雑経費	4,920	50,000	△ 45,080
				支出合計	8,381,802	9,536,000	△ 1,154,198
				特別独立金繰入	8,060	30,000	△ 21,940
				新基本金繰入	0	0	0
				予 備 費	0	7,050,122	△ 7,050,122
				支出総計	8,389,862	16,616,122	△ 8,226,260
				収入総計	18,078,657		
				支出総計	8,389,862		
				翌年繰越金	9,688,795		

3 平成25年度活動方針と予算

西村会長より同窓会役員人事について、宮崎副会長が健康上の理由で副会長を退かれ顧問に異動されることになった旨、報告がありました。その結果、平成25年度と同窓会役員は次頁の表の通りとなりました。

平成25年度の活動方針として、会報編集委員会からは従来通り年2回の会報発行の方針であること、会員総会運営委員会からは8月31日の会員総会の概要（詳細は本紙1頁）が述べられました。

会員交流委員会の揚野委員長からは、会員交流の会の第1回を来る6月29日（土）の午後に国土交通省都市局長の川本正一郎氏（54回）を招いて行うことが告知されました。演題は「これからの都市行政、そして関西の将来像」で、講演と懇親の会員交流をはかろうとの趣旨です。

また会員名簿委員会は、宮崎委員長に代わって久常務理事が委員長となり、今後名簿の発行についての検討を始めることが述べられました。その上で、今西副会長より下に掲載の予算書の説明が行われ、承認されました。

● 平成25年度 予算書 ●

[収入の部]				[支出の部]			
科 目	H25年度	H24年度決算	H24年度予算	科 目	H25年度	H24年度決算	H24年度予算
会 費	9,300,000	10,755,000	9,300,000	人 件 費	2,116,000	2,114,960	2,160,000
年 会 費	1,300,000	1,555,000	1,300,000	月 手 当	1,536,000	1,536,000	1,536,000
終 身 会 費	1,500,000	2,020,000	1,500,000	夏 冬 手 当	320,000	320,000	320,000
新卒入会金	1,200,000	1,200,000	1,200,000	通 勤 費	260,000	258,960	250,000
新卒年会費	2,800,000	2,800,000	2,800,000				
新卒終身会費	2,500,000	3,180,000	2,500,000	交 通 費	100,000	10,000	100,000
				需 用 費	860,000	547,556	850,000
会報広告料	60,000	30,000	60,000	通 信 費	400,000	336,768	400,000
総会会費収入	1,300,000	1,264,000	1,500,000	事務消耗品費	60,000	57,748	50,000
利子収入	10,000	10,480	30,000	備 品 費	100,000	9,450	100,000
ストラップ収入	0	21,600	0	IT関係費	300,000	143,590	300,000
フォトフレーム	0	30,000					
雑 収 入	0	13,500	0	会 議 費	2,500,000	2,354,743	2,500,000
寄 付 金	0	0	0	会員総会費	1,500,000	1,495,423	1,500,000
特別収入		227,955		役員総会費	250,000	233,436	250,000
収入合計	10,670,000	12,352,535	10,890,000	理事会費	250,000	238,983	250,000
				委員会費	300,000	210,382	300,000
				懇談会費	200,000	176,519	200,000
				事 業 費	3,590,000	3,209,643	3,690,000
繰 越 金	9,688,795	5,726,122	5,726,122	甲陽だより	900,000	852,203	1,000,000
				郵 送 料	1,600,000	1,549,322	1,500,000
収入総計	20,358,795	18,078,657	16,616,122	振替用紙	140,000	143,872	140,000
				封 筒	200,000	188,084	200,000
				記 念 品	400,000	306,940	500,000
				母校後援費	200,000	140,000	200,000
				地域活動費	150,000	29,222	150,000
				雑 費	290,000	144,900	290,000
				校 内 志	40,000	30,000	40,000
				慶弔その他	100,000	21,000	100,000
				振 替 料	100,000	88,980	100,000
				その他雑経費	50,000	4,920	50,000
				支出合計	9,456,000	8,381,802	9,536,000
				特別独立金繰入	13,500	8,060	30,000
				新基本金繰入	0	0	0
				予 備 費	10,889,295	0	7,050,122
				支出総計	20,358,795	8,389,862	16,616,122

(単位：円)

(単位：円)

平成 25 年度 同窓会 役員

平成 25 年度の甲陽学院同窓会の役員は以下のとおりです。

役 職	氏 名	回 生
名 誉 会 長	有 田 和 男	31
会 長	西 村 貞 一	45
副 会 長	宗 田 久 雄	高商 1
	泥 光 重	39
	揚 野 寛	45
	今 西 昭	57
相 談 役	平 田 豊	22
顧 問	横 内 昭	34
	尾 山 啓 二	35
	中 村 貞 三	35
	田 村 眞 也	36
	守 殿 貞 夫	41
	宮 崎 恒 彰	42
専 務 理 事	大 川 貴 史	55
	箱 田 光 信	57
常 務 理 事	中 野 忠 夫	44
	西 村 公 男	46
	山 崎 仁 嗣	47
	辰 野 久 夫	51
	河 内 厚 郎	52
	吉 井 友 実	54
	森 口 匡	55

常 務 理 事	嶋 吉 由 喬	62
	久 義 裕	62
	梅 谷 幸 弘	67
監 事	二 宮 一 明	33
	水 島 昇	49
	植 木 努	65

終身会費納付額設定表(平成25年4月1日～平成26年3月31日まで)

94回～88回	30,000円	74回	37,000円	60回	23,000円
87回	50,000円	73回	36,000円	59回	22,000円
86回	49,000円	72回	35,000円	58回	21,000円
85回	48,000円	71回	34,000円	57回	20,000円
84回	47,000円	70回	33,000円	56回	19,000円
83回	46,000円	69回	32,000円	55回	18,000円
82回	45,000円	68回	31,000円	54回	17,000円
81回	44,000円	67回	30,000円	53回	16,000円
80回	43,000円	66回	29,000円	52回	15,000円
79回	42,000円	65回	28,000円	51回	14,000円
78回	41,000円	64回	27,000円	50回	13,000円
77回	40,000円	63回	26,000円	49回	12,000円
76回	39,000円	62回	25,000円	48回	11,000円
75回	38,000円	61回	24,000円	47回～	10,000円

奨学金ファンド 回生別 醸金者数・醸金者率

回生	醸金者数	醸金者率
4	1	(100.0%)
11	1	(10.0%)
13	3	(37.5%)
15	1	(5.6%)
16	1	(7.7%)
17	3	(15.0%)
18	11	(42.3%)
19	6	(15.4%)
20	16	(24.6%)
21	5	(9.1%)
22	7	(11.1%)
23	11	(13.4%)
24	12	(16.4%)
25	13	(14.6%)
26	0	(0.0%)
27	27	(34.2%)
28	7	(17.9%)
29	5	(20.8%)
30	2	(9.5%)
31	46	(70.8%)
32	6	(8.3%)
33	42	(46.7%)

回生	醸金者数	醸金者率
34	47	(82.5%)
35	56	(64.4%)
36	48	(66.7%)
37	58	(53.7%)
38	71	(73.2%)
39	75	(67.0%)
40	77	(63.6%)
41	20	(16.1%)
42	21	(16.7%)
43	23	(17.6%)
44	13	(9.3%)
45	42	(30.7%)
46	22	(13.3%)
47	22	(12.9%)
48	13	(7.7%)
49	26	(14.6%)
50	13	(7.9%)
51	25	(14.1%)
52	18	(10.3%)
53	11	(6.5%)
54	33	(19.2%)
55	25	(13.0%)

回生	醸金者数	醸金者率
56	28	(16.3%)
57	56	(28.4%)
58	27	(15.1%)
59	23	(12.4%)
60	29	(17.2%)
61	10	(5.5%)
62	33	(17.2%)
63	11	(7.6%)
64	21	(13.9%)
65	13	(8.1%)
66	7	(4.6%)
67	10	(6.5%)
68	8	(4.9%)
69	13	(8.2%)
70	7	(4.4%)
71	3	(1.9%)
72	22	(12.3%)
73	3	(1.8%)
74	12	(8.6%)
75	15	(9.8%)
76	10	(6.6%)
77	3	(1.9%)

回生	醸金者数	醸金者率
78	7	(4.2%)
79	7	(4.2%)
80	2	(1.2%)
81	4	(2.4%)
82	5	(2.8%)
83	10	(5.7%)
84	1	(0.5%)
85	2	(1.1%)
86	3	(1.6%)
87	4	(2.0%)
88	4	(2.1%)
89	2	(1.0%)
90	2	(1.0%)
91	3	(1.5%)
92	1	(0.5%)
93	0	(0.0%)
94	1	(0.5%)
高商 1	1	(3.8%)
高商 2	2	(5.7%)
高商 3	1	(3.4%)
高商 4	2	(5.0%)
工専 1	3	(5.8%)
工専 2	7	(25.0%)
工経営	3	(23.1%)

* 醸金者数は「延べ数」です。同一人物が複数回醸金された場合はその複数回をカウントしています。

** 醸金者率を算出する際の分母は、回生ごとの人数から物故者と住所不明者の人数を差し引いた数です。

***いくつかの回生で「ご一同様」からの醸金がありました。それについてはやむをえず1人分でカウントしています。

甲陽学院同窓会奨学金ファンド醸金者一覧

平成25年1月1日以降5月31日までにファンドに醸金くださいました方のご芳名を以下に掲載いたします(敬称略)。まことにありがとうございました。(平成24年12月31日以前に醸金された方は73号～87号に掲載しております。)

20回 沖野 秀雄	38回 松林 輝芳	49回 今田 喜久	60回 阿多 博文
20回 川島 茂	38回 三木 則夫	50回 藤原 正昭	60回 藤岡 由夫
23回 山中 芳朗	38回 佐藤 康人	51回 井阪 博	62回 長宅 芳男
24回 綿谷幸次良	39回 加輪上敏彦	51回 内田 邦彦	62回 藪下 維也
27回 足立 宣久	41回 橋本 久	51回 芝田 秀和	62回 吉岡 泰彦
27回 光野 昭	44回 池田 健三	51回 長瀬 正人	64回 岡原 正周
31回 鈴木 登	44回 喜多 毅	51回 横田 真彰	64回 小村 直弘
31回 富士川真二郎	44回 西堂 雅博	52回 土居 章展	65回 植木 努
31回 八木 頼夫	44回 中野 忠夫	54回 田藤 修	68回 園田 将章
33回 二宮 一明	45回 岡本 定行	54回 中野 茂	69回 清水 洋祐
33回 二宮 一明	45回 郡山栄治郎	55回 児玉 潔	74回 徳岡 俊治
33回 森下 哲志	45回 小林 智夫	55回 桜井 太郎	76回 甲斐 明彦
33回 若田雄太郎	45回 松村 幾敏	55回 鈴木 博正	76回 山下 寿也
34回 江隈 一夫	46回 堀口 貞茲	55回 浜川 一郎	81回 山脇 敬博
34回 中村 佳央	47回 大沼 光夫	56回 坂本 智彦	87回 西川 忠宏
34回 横内 昭	48回 池田 収一	57回 国賀就一郎	88回 岡本 将孝
35回 尾山 啓二	48回 大谷 純生	57回 芝原 功	94回 黒田 剛平
35回 国領 薫	48回 藤木 祥平	57回 白尾 誠二	38回 猪坂秀次ご遺族
35回 西田 元次	48回 智見 一夫	57回 山本 茂生	94回生 育友会
38回 遠山 智	49回 伊久 哲夫	59回 島本 佳憲	

毎号毎号同じようなお願いばかりで恐縮ですが、今回も奨学金ファンドへのご協力をお願い申し上げます。

このファンドは、平成17年度から募金活動を始め、翌平成18年度から母校の在校生への奨学金支給を始めました。奨学生は、定期採用6名(各学年1名)と緊急採用(中学2名まで、高校2名まで)で、その選考は母校に一任しております。平成24年度は7名の在校生に奨学金(1人年間20万円)を支給いたしました。また、平成18年度からでは延べ52名の生徒が本奨学金を受給しました。

昨今の社会・経済情勢は、甲陽の生徒・保護者にとっても決して無縁ではなく、会社の倒産、リストラ、離婚など、母校の後輩たちを取り巻く環境は、良好とばかりは言えません。本奨学金制度は、間違いなく母校と在校生にとって有意義なものとなっています。

この奨学金制度を永続させるためには、ファンド資金の充実が必要なことは申すまでもありません。各回生におかれましては募金活動に取り組んでおられると存じますが、回生別の募金件数の表によりますと、この1年間で特に積極的に取り組まれた回生もあるようです。感謝申し上げます。夏の会員総会のホームカミング学年を中心に今後とも募金活動にご協力くださいますようお願い申し上げます。

醸金方法は下の通りです。一口1万円から何口でも結構です。また、一度ならず何度も醸金下さる方も大勢いらっしゃいます。ありがとうございます。なお、税法上の寄付控除の対象にはなりません。

皆様ご存じのように、母校甲陽学院には、保護者・卒業生からの寄付を募らないという誇り高い方針があります。そんな中で、奨学金ファンドは、同窓生として母校に貢献できる数少ない機会の一つです。皆様のご協力を重ねてお願い申し上げます。

【醸金方法】

- (1) 同封の振込用紙を利用し、通信欄にファンドへの醸金の旨を明記して、郵便局もしくは三井住友銀行の「甲陽学院同窓会」の口座にお振り込み下さるか、
- (2) 三菱東京UFJ銀行芦屋支店 普通口座3998990 口座名義 甲陽学院同窓会奨学金ファンド にお振り込み下さい。

(2)の場合、振込人の卒業回生が分かるようにお願いします。

学校だより



お世話になりました

今春、松井義知先生、坂田由史先生、山崎與さんの3名の方が母校甲陽学院を退職されました。

松井義知先生は1971年から42年間、音楽を担当されました。

坂田由史先生は2011年から2年間、保健体育を担当されました。

山崎與さんは2001年から12年間、校内整備を担当されました。

長い間ありがとうございました。

松井義知先生からご寄稿頂きましたので以下に掲載いたします。

42年間の感謝をこめて

松井 義知



2013年3月1日(金)に高校2年A組とB組、3月4日(月)に高校1年生全4クラス、3月6日(水)に高校2年C組とD組、甲陽での最後の合唱テストを行いました。1年生はシーシャントーの“Swansea Town”、2年生はモーツァルトの“Ave verum corpus”。2曲とも甲陽での最後の合唱曲にふさわしい。授業の始めに「私事だが、この時間は私の甲陽での最後の合唱テストです。良い練習をし、テストでは素晴らしい演奏をし、この授業が深く心に残る1時間になりますように。」と話しました。果たして8クラス全てが見事な合唱を聞かせてくれました。素晴らしい送別の歌を聞かせてくれました。

1971年4月、大学を卒業してすぐ甲陽学院に勤めました。香櫨園校舎の清々しさ、甲子園校舎の重厚さ、これが第一印象でした。ともに中学生高校生を教育する場として、素晴らしい環境が備わっていると感じました。この整った教育環境の下で、素晴らしい生徒達と42年間出会いました。感謝いたします。素晴らしい先生方と42年間出会いました。感謝いたします。素晴らしい保護者の皆様と42年間出会いました。感謝いたします。

恵まれた、また優れた素質・才能を持つ甲陽生に音楽

という教科をどのようにすれば真正面から取り組んでももらえるようになるか。これが勤め始めた頃の私の課題でした。いろいろ迷い、遠回りしながらたどり着いた答えは「合唱を通じて音楽の魅力を教えること」でした。「教える」ということは、今まで蓄えてきたもの、身につけてきたものをドンドン出して伝えて行かなければなりません。いつも同じ言葉で説明したり、同じやり方で練習したりしていれば新鮮さに欠ける授業となってしまいます。つねに教える側が蓄え続けて行かなければ、生き生きと伝えることができなくなってしまうと思います。ですから、いつまでも歌う技術を高めるべく毎日努力しなければならない、と考えてきました。甲陽生が卒業後も、人生をより豊かなものとする一つの手段として、何らかの形で音楽と接してくれることを願って。

3月23日(土)が年度末の終業式でした。終業式の後、2年生の有志が退職を祝って、寄せ書きの色紙と演奏会するとき胸に飾る花を持って来てくれました。26日(火)と29日(金)にグリー部の演奏会があり、その花を胸に付けて指揮をしました。このときの演奏曲も最後にふさわしい“男声合唱組曲「雨」”でした。胸に付けた花を通して皆の温かい思いが伝わり、また舞台でのグリー部員の真摯な歌声が私の心に響き、一生忘れることのない貴重なステージとなりました。

その後も多くの皆様方から定年退職を祝っていただきました。感謝申し上げます。今後は、テレマン室内合唱団での演奏を中心に、いろいろな合唱団での指揮者として音楽と関わってまいりたいと思います。42年間の甲陽生活、本当に充実の日々でございました。2017年には創立百周年を迎えます。甲陽学院が次の百年にも向かってますます発展されますよう祈念し、退職の挨拶とさせていただきます。



音展でグリー部の指揮をされる松井先生



学校だより

学校だより



創 立 記 念 音 楽 会

2013年度の創立記念音楽会は、メゾソプラノ歌手波多野睦美氏、作曲家・ピアニスト高橋悠治氏をお招きし、イギリスの歌～ブリテン生誕100年アニバーサリーに寄せて～と題されたプログラムで小品集十数曲が披露された。前半はイギリスを代表する作曲家ベンジャミン・ブリテンの作品のみで構成され、後半は全て異なる作曲家の作品であるがイギリスにゆかりのある作曲家のみで統一された大変興味深いプログラムであった。

ブリテンの「音楽が愛の糧なら」でコンサートはスタート。静かな立ち上がりの中にも、二人の音楽が早速立体感を伴って溢れ出した。歌のフレーズが終わりに近付くとピアノが流れ出し、そのピアノのフレーズが終わりに近付くと今度は歌が流れ出すのだが、思わず音のないパートにも意識が向く。お互いその時間をお互いしめるようにテンポは流れる。中盤から高橋氏の軽快なピアノにリードされ、今度は二人それぞれの音の輪郭がはっきりと見える。短い曲であったが、これから様々な感情を抱かせてくれるという期待感の湧くオープニングであった。

続いて「民謡編曲集」へ。アイルランド、イングランドの各地方に伝わる民謡をブリテンが独唱風にアレンジしたものであるが、この曲を通して言葉の持つ力に驚かされた。歌詞は日本語でないのに意味をすぐに捉えることはできないが、その語感や音楽表現からそのニュアンスを十分感じることができる。また、英語は音を伸ばすことのできる母音に対して音が切れる子音の占める割合が多く歌い手を苦しめる言語であるのだが、感情の込め方によってスピード感の変わる子音により、同じ母音がまた違う色を帯びているかのように聞こえる。嬉しさ、怒り、せつなさ、諦め、そんな数々の感情が音楽を通して伝わってくる。そんな技術の高さを思いながら、音楽に酔う心地良さがあった。

前半最後は、歌曲集「子守歌のおまじない」。各曲、波多野氏自身による日本語による詩の朗読からスタートし、素直に感情移入できる…と思っていたのだが、これは我々から見れば海外の子守歌であって、中には「寝るの！さもないと蛇のムチでたたくわよ」といった過激な内容も登場し、ただただ文化の違いに驚くばかりであった。

*

後半は、高橋氏のピアノソロから始まった。今までは2人でテンポという時計の針を意識し合いながら進めていたものから、ソロとなるとその針の進め方がまるで別次元であった。一人の感性から湧き出るものがこんなに

も豊かなのか、と驚かされる一曲であった。

再び波多野氏とのセッションがスタート。後半の曲は一曲ごとに劇仕立てになっており、あるシーンではフランスのシャンソンを彷彿させ、またあるシーンではアメリカのブロードウェイのようなドラマチックな内容であるものの、言葉はイギリス英語であるそのギャップも面白いものであった。そしてオペラや独唱では、高音が魅力のソプラノ歌手に目を奪われがちになるが、中音域を得意とするメゾソプラノならではの太い高声が魅力的で、強い声が強い主張としてしっかりと心の中へ伝わってきた。

最後には中学一年生から花束が贈られ、二人が講堂の後ろの扉から姿が見えなくなるまで拍手が鳴り止まない暖かい雰囲気の中、演奏会は幕を閉じた。

(劔 宝 功 記)



☆ 今年の音展は9月22日(日) ☆

今年の高等学校の「音楽と展覧の会」は曜日の関係で秋分の日より一日早く、9月22日(日)に開催いたします。多数の皆様方のご来場をお待ちしております。

なお、中学校の音展は例年と同じく11月3日(日)の文化の日で開催いたします。



学校だより



学校だより



修学旅行報告 高校2年

甲陽学院高等学校 96 回生 一同

2013 年 6 月 4 日(火)～6 月 7 日(金)



2013 年度 6 月 4 日 (火) から 7 日 (金) の 4 日間、96 回生は北海道への修学旅行に行きました。

気のおけない仲間との修学旅行を心待ちにした一団は、4 日朝伊丹空港より、飛行機に乗り込み、新千歳空港に到着しました。ここからコースが分かれ、ノーザンホースパークで自然と触れ合う体験、池田市でワイン城やスイーツを楽しむ体験、帯広市内観光、支笏湖の美しさを観光船の船底から眺める体験をそれぞれ楽しみました。夜は十勝川温泉につかり、ちょうどこの日に行われていたサッカー日本代表戦にもりあがりすぎる一幕もありました。

2 日目は、富良野の平野を走るマウンテンバイクや、初めてのアイスカーリング体験などのアクティビティに参加する班と、道東観光へ行く班とに分かれました。道東への観光は本校修学旅行では珍しく、多くの生徒が参加し、オンネトー・阿寒湖・摩周湖を好天のもと観光する貴重な機会に恵まれました。



オンネトーにて

3 日目は主に道央の観光となりました。旭山動物園や富良野・美瑛を訪れたり、雪解け水で水量の増した川でラフティングをしたりと、この日も大自然を満喫する内容でした。宿は札幌市内のホテル。夕食後は、大通公園のテレビ塔から札幌の夜景を見るツアーにも参加し、最後の夜を楽しみました。

最終日は、札幌市内散策や、札幌ドーム内へのツアー、小樽市内観光などで北海道での最後の時間を惜しみながら過ごし、大きな病気やケガもなく無事に本年度修学旅行を終えました。

空気を吸い、空を見上げ、芝生に転がるだけで、いつもとは違う何かが感じられる北海道の地で、最高の仲間と過ごした 4 日間はよき思い出となりました。

(石井賢吾 記)



ラフティング

4 月 8 日 (月)、中学校の講堂で入学式が行われました。

中学校入学式

前日の 7 日は同窓会ゴルフが中止になるほどの荒れた天候でしたが、この日は朝から穏やかな春の日差しに溢れ、初々しい学生服に身を包んだ新入生 211 名の門出を祝福しているかのようでした。今年の入学生は第 100 回生という区切りの学年になります。母校の歩んできた歴史の重さを改めて感じます。



学校だより



学校だより



高等学校 バレーボール部

全国私学大会 3年連続出場

平成 25 年 4 月 1 ～ 4 日に東京都・神奈川県で行われた第 18 回全国私立高等学校男女バレーボール選手権大会に 3 年連続出場いたしました。初戦の西海学園戦は、お互い知らないチーム同士の探り合いで始まり、甲陽の流れになかなか持っていけず、相手に押し切られてしまいました。終わってみれば、この初戦が実質この K グループの決勝となっていました。続く如水館戦は、1 試合観察できたことで相手の傾向も分かり、常にリードを保ったまま快勝できました。翌日の明和県央戦も、リードされる場面はあったものの落ち着いてプレーすることができ、余裕ある勝利でした。最終の東海大学第三高戦は、2 年前には勝利できた相手でしたが、キャッチの乱れから終始リードを許し、相手の今まで決まらなかった B クイックまで当たりだし、逆転することができませんでした。結果、予選グループ戦を 2 勝 2 敗で終わりました。

現在チームはメンバーが総入れ替えで 1・2 年新チームになっており、総体近畿出場枠決定戦まで進みましたが、他校 3 年チームに敗れております。気持ちを切り換え、次の私学近畿・全国に向けて毎日鍛えております。どうか引き続き応援よろしくお願いいたします。

(岩見誠之 記)

【全国私学大会試合結果】

- ① ●甲陽 0-2 西海学園 (長崎)
- ② ○甲陽 2-0 如水館 (広島)
- ③ ○甲陽 2-0 明和県央 (群馬)
- ④ ●甲陽 0-2 東海大学第三 (長野)



中学校 陸上部 活動報告

昨年度入学した友田慶一君 (99 回 中 2) は、甲陽学院陸上部史上すごい結果を残しました。まず、昨年 7 月の阪神総体の 1 年男子 100m で優勝 (12"30)、兵庫県総体でも優勝 (11"90)、さらに近畿総体でも優勝 (11"74) しました。また、8 月末のジュニアオリンピック最終選考会の 1 年男子 100m で 11"77 を出してこの種目の参加標準記録 11"80 を突破し、県でただ一人ジュニアオリンピックに参加しました。また、県のリレーチームにも代表入りました。結果はいずれも予選は通過しましたが、惜しくも準決勝で敗退し、決勝を逃しました。現在本人は、練習に休まず参加するだけでなく、週に一回、大阪ガスの陸上教室に通っています。また、陸上競技関係の書物を読んで知識も深めています。いずれはジュニアオリンピックの雪辱を果たしてくれることでしょう。

ところで、2000 年～2002 年頃の陸上部は、部員がわずかしかなかった、練習をあまりやらず、試合にもほとんど参加せずという崩壊状態でした。これを一変させたのが小田虎賢君 (88 回) です。小田君は陸上部過去 12 年での最高記録 (100m 11"46) を出すなど高い競技能力を持っていましたが、それだけでなく県の強化校舎などに参加して自分でトレーニング方法を学び、下級生を引っ張って一緒に練習を行いました。また、当時の石川校長も陸上部の活動に理解を示し、草ぼうぼうでとても走れなかったグラウンドを、重機を使って整備してくださいました。それらの甲斐あって陸上部全体の力が向上し、小田君が中 3 の時に、31 年ぶりに甲関戦に勝利しました。このときの練習法が、次の部長の山田諒君 (89 回)、さらに永楽淳士君 (90 回)、松原敬也君 (91 回)、肥後亮佑君 (92 回)、松本佳己君 (93 回)、及川陽太君 (94 回)、高岡義大君 (95 回)、赤野健悟君 (96 回)、松尾光太郎君 (97 回) へと受け継がれていきました。彼らを中心とした部員の努力の結果、過去 9 年間に 3 回甲関戦に勝利を収めることができました (山田君、松本君、高岡君のとき)。また、甲関戦以外の試合でも数多くの選手が活躍しました。詳しくは甲陽学院のホームページをご覧ください。

さて、今年の陸上部は、部員が 16 人と少なく、甲関戦のような団体戦では非常に不利です。しかし、選手一人一人の競技能力は非常に高く、過去 12 年間の陸上部の最高記録を破りそうな選手が数名います。練習も部長の今村真人君 (98 回) を中心に熱心にやっており、みな力を伸ばしています。友田君以外で今年期待できる選手は、98 回生 (中 3) では今村君 (走高跳)、隅君 (100m・砲丸投)、今井君 (400m)、宇治原君 (1500m)、岩崎君 (砲丸投)、99 回生 (中 2) では松田君、山本君、矢野君、白崎君、柳君、金岡君、朝倉君です。今年の秋の甲関戦ではきっといい結果を残してくれることでしょう。

(喜多 巧 記)

学校だより



甲陽学院と私

久 義裕(62回)

1981年に高等学校を卒業して、はや32年。人生を振り返るにはまだ早い、甲陽学院に通うことができて本当によかったと思う。もちろん恵まれた施設で学校生活を送ることができたことは幸せであったが、とりわけ恩師、友人、先輩、後輩を得たことが大きな財産となっている。

多くの同窓生諸氏に共通していると思うが、人生の進路選択において甲陽学院から受けた影響は非常に大きい。

私の場合、最も大きかったのは中学社会部・高校地歴部において、高井悌三郎、宮川秀一、山内英正先生に指導を受けたことである。もちろん自分の関心ある領域と先生方のご専門は異なったので、自分自身の研究内容に関して詳細な指導を受けることはなかったが、先生方には、遺物、史料に直接あたることがこの上なく重要であるということ教えられ、今に至るまでそのことは最重要視している。往々にして結論を得るのに回り道することもあるが、それも大切なことであると考えている。

大学に入学し、クラブに入る際は考古学会と英語会に入会した。中島久先生より慶應に行くなら、考古学会の先輩に田辺征夫(44回)宗広信(54回)両氏がいるからと言われ、入部した。同時に英語会に入ったのだが、これは新入生オリエンテーションのとき、先に入学していた住野豪生氏(63回)に勧誘されたからである。

大学3年になり研究会を選択する際、日本金融史のゼミを選んだ。近現代を研究テーマに選び公刊された資料をもとに卒業論文を書く学友の多い中、史料にあたる研究がしたいがために近世を選び、品川区豊町にあった国立史料館へ近江地方の古文書を読みに行くことにした。大学の先輩である同館の安澤秀一教授を訪れた際、助手であった笠谷和比古氏(49回)を紹介され、古文書読解の指導を受けた。

読み解いた古文書のデータをコンピュータ入力し、頼母子講のキャッシュフロー分析を行なった。ちょうど卒業論文執筆時、甲陽へ教育実習に訪れた際、大学コンピュータを用いた演算では高次方程式に解が得られなかったため、山下正昭現校長に教えを請うたものの、容易に解の得られるデータを提示してしまい、高校のコンピュータで解が得られ、「解けるやないか」と笑われたことは今でも記憶している。

文科系であっても、大学院に進学するのは当然であると先生や先輩方から刷りこまれていたので、バブル期で友人が皆金融機関に就職する中、大学院に進学することにした。進学後、東京甲陽会事務局の手伝いをする事になり松村幾敏(45回)一色誠一(48回)坂本眞一(53回)

村山雅彦(56回)各氏らと事務局をつとめさせてもらったが、その際、社会人同士のフォーマル、インフォーマルのつながりはどのようなものを教えられた。また東京甲陽会の役員であった藤原研三(5回)建内保興(12回)長瀬彰造(16回)各氏には経済人はかくあるべきというお手本を見せられ、今でも折に触れ参考にさせてもらっている。濱田陽太郎氏(23回)には教育者はどうあるべきか身をもって教えてもらった。今にして思えば、学部卒業後、就職しなかった私に対して、先輩方は社会人の世界について教えて下さった。なんともぜいたくな新人教育である。

製造業である現勤務先に入り二十年を超えたが、各方面で同窓生にお目にかかり、交友を深めている。特に祖父の代から三代にわたりお世話になっている佐治信忠氏(45回)には会うたびに励まされる思いがする。

地歴部の友人とは、卒業以来の交流が続いている。乾正人、井本逸勢、神代浩、長野聡、吉岡泰彦(62回)各氏である。マスコミ、文部行政、中央銀行、医療と、現在私の関わっていることと何らかの関係があり、彼らとの交流はよい刺激となっている。また甲陽史学会やその他の機会に地歴部の先輩方、橋本久(41回)樋渡利秋(45回)五十川伸也(50回)佐野良彦(51回)各氏に会うことは地歴部時代の原点に回帰する効果があり、有難く思っている。

数年前の会員総会で久しぶりに会った上西啓介氏(63回)には顔を見るなり、「教えに来て下さい」と言われ、それ以来、大阪大学大学院工学研究科で大学院生に教鞭をとっている。研究の場から離れた私に若い学生と交わる貴重な機会を提供してもらい感謝している。

先輩から受けた好意は、後輩を支えることによって返すというつもりでこれまで行動してきたつもりであるが、昨年、同窓会常務理事に就任させてもらって以降は、同窓会運営に寄与することにより、なお一層恩返しさせてもらっているつもりである。同窓会が会員諸氏にとってコミュニティとして重要な役割を果たすことを念じてやまない。



久 義裕(ひさ よしひろ)

1962年生。慶應義塾大学商学部、同大学院商学研究科博士課程を経て、現在、久金属工業株式会社常務取締役

会員だより

22回 桜 永 会

平成 25 年 5 月 30 日

梅田阪急ターミナルビル 17F 「有馬」にて

(桜永会は担任だった桜組の
永井勇一先生の名を冠した会)

皆米寿(88才)を迎えた。

遠くは広島から勝本君、岡山から伊藤君が参加。40 人程のクラスで 8 名も集まったことは非常に嬉しかった。

多少は腰痛や歩行困難の人も元気で昔話や、近況報告で時の経つのも忘れた。

最後に「嗚呼青春の血は燃えて……」の甲陽中学校校歌を合唱してお開きとなった。

席を替えて近くの喫茶店で 2 次会を行い、来年 5 月の再会を約して別れた。

会場の設定から連絡までお世話をかけた高木君に心から感謝します。

(出席者)大西、高木、小林、傍島、勝本、斉藤、伊藤、堀部の 8 名(写真左から)

(傍島 記)



25回 天文会(S20年卒 橘組)

平成 25 年 4 月 20 日(土) 晴天の午後今年も梅田の阪急グランドビル 28 階グランドビル「司」(日本料理)にて開催致しました。

平成 23 年にお伝えしましたが、平成 5 年から、毎年 4 月 20 日に同窓会を催し、今年で二十一回目を迎えました。昨年桜組の安達氏より桜、橘組合同クラス会への賛同は如何ですかとお話がありました。今回、出席者の総意で、年々出席人数が減って来ましたが、まだ今年の状況では、暫くはこのままで続けようとの、意見でした。病いで苦しんでいる森山君に今回半世紀ぶりに洲崎君が出席してくれましたので、6 名での会合となりました。常連の浅香君が所用にて、村上宗徳君がお休みですが、来年は又楽しめるのではと思っています。亡くなりました、中村君、片山君、谷元君の冥福を全員で黙祷を

して、各自の近況報告及び欠席者の現状を知ってる者が説明をしながら約 2 時間、歓談、飲食を楽しみました。最後にお互いに健康に気を付けて、来年も元気で再会出来る事を誓い合って、散会致しました。来年は 4 月 20 日の開催を「司」にて行うことに決定しましたが、何名と会えるかが楽しみです。持病の方が多くて、出席者がどうかと思いましたが、幸い今年は 6 名となりました。

猶当日の出席者は下記の 6 名です。

左より

波々伯部 繁、押目 圭市、新美 政隆、村上 誠一
洲崎 辰三、森山 泰史

(波々伯部 繁 記)



28回・30回 同 窓 会

28・30 回の卒業生は、今年の同窓会を 6 月 10 日に西宮神社会館で行いました。

昨年 9 月には木村範道氏と津路安夫氏が相次いで亡くなり、毎年開催してきた同窓会も次第に出席者が減り継続するかどうかが問題でした。

今年集まったのは、佐伯・林・松野・三浦・西山の 5 人でした。少し淋しい同窓会でしたが欠席者の近況(案内への返事)や、それぞれの健康状態、家族のことなどを話し合い、とりあえず来年も開催することを決めました。

来年の予定は、5 月 17 日(土)西宮神社会館です。

報告者：西山清雄

写真は左から、林、松野、佐伯、三浦、西山です。



34・35・36回

新制 1 期・2 期・3 期高校卒業 60 周年合同記念同窓会
——3 年連続開催第 1 回(34回・35回・36回生合同同窓会)

2013 年(平成 25 年)4 月 20 日。ノボテル甲子園(旧高校跡地)。3 学年卒業生合計 332 名。今回参加者 55 名(同伴・介添者 5 名含む)。物故者合計 82 名。

来賓：山下正昭校長・西村貞一同窓会会長。恩師：93 才宮本茂先生・88 才中島博先生。アコーディオン演奏吉田赴氏。写真撮影 56 回石川雅夫氏。司会進行 34 回水野寛氏。

開宴午後 12 時 30 分。

昭和 22 年・23 年・24 年に夙川河口香栢園の中学校に学制改革 6・3・3・4 制の第 1 期・第 2 期・第 3 期としてそれぞれ入学した。

アコーディオン演奏の“旧友”“乾杯の歌”などが流れる中、懐しい顔々が語り合う。焼夷弾片をベースにした野球・ロックガーデンへの遠足・香栢園浜での遠泳・天体観測・肝試し大会。そして高校へ。新しい友来たる。講堂での弁論大会・甲子園球場周回のマラソン大会・校門での進駐軍の敬礼・平岡養一氏の木琴演奏などなど。時は忽ちのうちに過ぎ、新制 1 期(昭和 28 年高校卒業)の卒業 60 年の面々 18 名がステージに集合、一言ずつの挨拶。更にアコーディオンの伴奏による校歌斉唱・集合写真の撮影。35 回広本健氏の音頭による 3 拍子の締め。来年は第 2 回を 10 月 25 日に開催することを約し閉宴した。

誠に“友とぶどう酒は古きほど良し”である。高度経済成長と共に社会人となり、60 年。学友達は殆ど現役を退き今や 80 才にならんとしている。正しく“成年重ねて来らず”である。いつの間にか花曇りの空からポツリポツリと小雨が降って来ていた。懐しさは爽やかさに包まれ、時の流れと一緒に過ぎ去って行く。

(幹事・34 回 水野寛・奈良節雄・吉田忠二。35 回 沢井陽・三木正之、広本健。36 回 原謙三・西村善明。代表幹事(文責) 35 回 尾山啓二)



甲陽学院 34・35・36 高校卒業合同同窓会 2013 年 4 月 20 日 ノボテル甲子園

36回 同窓会

「緑化・養蜂・尼崎」・西村善明氏講演も

2013 年 5 月 9 日午後 4 時からホテル竹園芦屋で恒例のクラス会を行いました。参加者 27 名。開会にあたって最近の物故者米山五郎氏、松浦一雄氏に黙祷。

その後懇談に先立って尼崎鉄工団地協同組合理事長西村善明氏(尼崎電機(株)取締役会長)の「緑化・養蜂・尼崎」と題する講演(スライド付き)を拝聴。同組合が尼崎の緑化事業「21 世紀の森」推進から養蜂事業をも立ち上げ、研究の上、挑戦 2 年でハチ 10 万匹を養成し採集した蜂蜜の商品化にいたる輝かしい経緯に全員大拍手。工都と呼ばれた尼崎の緑化を含めた自然環境がこのように改善されイメージの転換に資していることに一同感銘を受けました。なお蜂蜜の商品名は「尼みつ」。

続いてビール・白鹿・ワイン・焼酎・ウイスキーなど応酬しつつ遠方参加者(鮎貝、酒井、但井、福田、星野、吉田各氏)歓迎挨拶、各自近況報告などおおいに盛り上がりしました。次期幹事の挨拶などあって来年の再会を約して散会。有志による二次会、芦屋カンツリー倶楽部での翌日のゴルフ会(世話人中川氏)も実施されました。(今回幹事、田村・矢野・舟越)。



☆ ーお願いー 住所変更の届け ☆

- * 会報の発行に際し、毎回・約 100 通に近い会報が転居先不明で戻ってきます。
- * その都度、事務局で労力と時間をかけて、転居先の調査を行い再発送を行っています。事務局の確認作業にも限界があります。住居を移転された時は、忘れずに事務局まで住所移転の通知をお願いします。
- * 各回卒の理事・評議員の皆様は、同期の方に住所・勤務先等の変更の連絡がありましたら、必ず事務局にも、ご連絡の程お願いを申し上げます。

42回 三六会(サブロクカイ)報告

①当学年のホームページがリニューアルしました

前幹事花木さんが創設しましたホームページがリニューアルしました。“岡西先生を囲む会”といった当学年以外関連の方の記事もありますので、興味のある方は下記のアドレスにアクセスしてください。

<http://koyo36.com> また、セキュリティのためログインパスワードを設定してある項もありますが、閲覧希望の方は下記アドレスに問い合わせいただければ事情によりお教えします。

ohno-yt@leto.eonet.ne.jp

②学年同窓会が開催されました

平成 24 年 10 月 24 日（水）18 時から大阪北新地“四国三郎”に同窓生 24 名が集まり“古稀を祝う会”が開催されました。行楽のシーズン真ただ中でもあり、諸行事、旅行等で参加できなかった恩師、同窓生も多くありましたが、賑やかで楽しい 2 時間があったという間に過ぎました。詳細はホームページをご覧ください。やむなく欠席の中川先生からは“古稀を迎えるに我々に”の内容でコメントをいただき当日の会場で代読、披露しました。

この“文”もホームページに記載されています。
(当日の集合写真はこちら)



43回 同 窓 会

平成 24 年 8 月 25 日、ノボテル甲子園での夏の会員総会日にホームカミング学年として、歓迎されることもあり、その日に合わせ、高校卒業後 50 年を記念して 5 年ぶりに同窓会を開催しました。同窓会前に開催されました、会員総会におけるホームカミング学年としての出番では、過去最多の 28 名が登壇し代表で藤本君が企業のトップのキャリアを生かして、迫力のある見事な挨拶をし、拍手喝采を浴び、会員総会を大いに盛り上げ、第 43 回卒業生の存在感を示すことができました。

会員総会後の同窓会では、約 1 年前から大阪並びに東京での定期的なミニ同窓会での周知、参加の呼びかけが

功を奏して、関東など遠方からの参加者 18 名を含めて、48 名の多くの同窓生が参加していただき、和気藹々と旧交を温めることができました。

会場内の掲示板に卒業アルバムから抜粋した、クラスの集合写真、クラブ活動、体育祭、修学旅行の写真を掲示し高校時代にタイムスリップできる雰囲気づくりをしました。また、全員の近況が分かるよう、欠席者とともに出席者の近況も資料にまとめ配付し、話題提供をしました。

最初に、残念ながら逝去された 23 名の同窓生を読み上げ黙祷を捧げ、続いて幹事代表の開会の挨拶、乾杯で開宴となりました。お招きした、恩師の宮本茂先生のご挨拶では、高校からの入学者を D 組として一学期間担任された時の思い出を中心に懐かしいお話をお伺いすることができました。今までに学年同窓会を数回実施してきましたが、初参加者が 7 名で、本当に久しぶりの再会で、あちこちで時間を惜しんで話し込む姿が見られました。

大阪、東京で開催している、20 年以上に及ぶ甲陽大阪 43 会及び枯山水の会の活動ぶりの紹介、初参加者等数人による、元気なシニアライフの近況の披露、中締め挨拶、最後に甲陽学院の歌及び高校校歌を、高校時代ブラバン部の指揮者の尾上君の名指揮で声高らかに歌い、創立 100 周年の時の再会を約して、名残惜しい、思い出に残る同窓会も閉会となりました。

その後、有志による二次会、翌日には、ゴルフを大いに楽しみました。

最後になりましたが、同窓会の開催に当たり、1 年先輩の同窓会幹事の大野様に種々ご教示いただき、深く感謝申し上げます。

(平井真一 記)



44回 藤 吉 会

「藤吉会」は昭和32年入学A組「藤野学級」のクラス会です。藤野吉平先生は一昨年7月9日に享年90歳で亡くなりました。先生のおられない「藤吉会」ですが引き続きやろうということで、去る4月7日に中川君の幹事で行われました。

遠方からの参加者もふくめ19名が集いました。そのうちの有志9名は会に先立ち満池谷墓苑の先生のお墓をお参りいたしました。墓石は先生自らが建立されたもので、てん書で「藤野家之墓」と刻まれており、先生より少し早く他界された奥さまも一緒に入っておられます。一人ずつお参りしましたが、あらためて先生が亡くなったことを実感いたしました。参拝後、近くの阪神淡路震災慰霊碑に参り、春の開放中の満池谷浄水場の桜を見て夙川を散策しながら会場へ向かいました。

夕方からの会場は梅田の「うおまん」でしたが、参加者には12年後輩の栗野さんが撮られた先生のスナップ写真を受け取って頂きました。東京からいつも来てくれる芦川さんが都合で欠席されたのは残念でしたが、久しぶりに神奈川から今村さんが来られ、また大阪ですが森藤さんも何年かぶりで参加してくれました。

体調のすぐれない方、いつまでも元気な方など古希に近づけば様々ですが、まだなんらかの仕事をされている方も多くおられました。なかでも喜多さんはこのたび、

大阪市内にペットも入れるイタリアンレストランを始められたとのことで、次回の藤吉会の会場はそこに決まりました。また水口さんは今建設中の日本で最高の高さを誇る「阿倍野ハルカスビル」のホテル部分の設計監理の仕事にまい進されています。

そして、高校の頭髪や服装が自由になったのはいつ頃から？、中学の白風呂敷はどうなっているの？、耐寒山行は今も続いているの？、などの疑問にも学院資料室長の今西先生から事前に教えていただいてご披露しました。

また今年の夏の同窓会は我々44回生がホームカミング学年となるので多数の参加を呼びかけ、併せて甲陽ファンドへのご理解もお願いしました。

藤吉会のメンバーが元気な限り、このクラス会は続けていきたいと思っています。

なお先生のお墓の場所は、満池谷墓苑の南正門を入れて左に行く小道をしばらく進み、道に傾くように伸びている木の先を少し左に入ったところ(2区86号)。因みに近くには辰馬家の広くて大きな墓所がありました。(林 記)



■あて名ラベルの記号の見方

既に終身会費や年会費をお納めの方には失礼ですが、今回も振込用紙を同封しております。未納の方は、よろしくお納め下さい。

平成25年5月31日現在での同窓会費の納入状況をご案内しています。

例：終身会員H20年度

♪	卒	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	終
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

② 枠内には、順に平成元年度、2年度、…23年度の年会費のお支払い状況を示しています。

▼記号の意味

1	当該年度分の年会費を納入済	終	当該年度に終身会費を納入	♪	甲陽学院に在籍
0	未納			卒	その年の3月に卒業

従いまして、枠内に含まれる0の個数 × 年会費が、未納の年会費となります。同封の振り込み用紙にてお支払い下さい。

★H元年以降にご卒業の方は、卒業時から7年分の年会費を予めお納め頂いております。次の2つの例をご参照下さい。

♪ ♪ ♪ ♪ ♪	♪ ♪ ♪ 卒 1	1 1 1 1 1	0 0 0 0 0
0 0 0			

H16以降は未納です。未納分をお納め下さい。

♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	卒	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1																	

H16年3月にご卒業、さらに1年分の年会費を頂いたので、H23年度まで納付しておられます。

◎尚、年会費を納められるとき「何年度分」と指定されても、過去分が未納の場合、そちらへ充当させていただいております。また不明の場合は、事務局までお問い合わせ下さい。

第1回 会員交流会 講演会

いま、学校創立100周年に向けて、同窓会活動のさらなる活性化が大きなテーマです。そこで夏の年1回の会員総会に加え、小ぶりでも世代やクラブの枠を超えて社会勉強や人脈交流に資し、また観て食べて楽しめる交流の場をと、公式活動として会員交流の会を発足させました。

その第一弾はすこし硬めにと、昨年国土交通省の都市局長に就任した昭和48年卒、54回の川本正一郎氏を公務多忙のなか東京より招き、大阪堂島のクラシックな中央電気倶楽部で6月29日(土)午後、講演会を開きました。初めてのことで参加者数を心配しましたが、大阪まちづくりの集いの呼びかけのおかげで世代を越えた35回から75回まで41名の参加をいただいて、まずまずのスタートとなりました。

西村貞一同窓会会長のウエルカムスピーチで始まった1時間30分に及ぶ熱のこもった講演(後述)は、さすが日本を支える立場、辛口ではあるが大阪人にとってはきわめて勉強となる内容で、そのあとの懇親会では全員輪になり学院歌を高らかに歌って盛り上がり、会員交流の成果を挙げることができました。

(会員交流委員会・委員長45回卒揚野寛)

「これからの都市行政、
そして関西の将来像を語る」

国土交通省都市局長

川本正一郎氏(54回卒)

都市行政(エリア全体のマネジメント)は、戦後、産業構造の急速な変化により、農村部から都市部に人が集中する都市膨張化の中、どのように住宅を供給していくのかというのが内政上の大きな政治的課題でした。この住宅供給にあたりスプロール(都市郊外における農地や空き地などの無秩序無計画な宅地化・拡大)を抑え、道路や生活インフラの整備後に住宅地域を配置する計画的な郊外部の開発と、重化学工業化に伴う公害問題の点から、土地の用途規制導入により工場と住宅や商業地の分離を基本方針とする都市中心部の開発への取り組みが始まりました。このような都市の郊外と中心部の2本立て構想が日本の都市計画の基本的な考え方です。平成10年頃、新機能付加による都市中心部の再生を目的に小泉政権による「民間の都市開発」の後押し政策(高層ビル化のための税制優遇や金融的措置など)がありましたが(東京丸の内、六本木ヒルズ、ミッドタウン、大阪北ヤードなど)、都市計画法が施行された昭和44年(1969年)以降、骨格そのものはほとんど変わっていません。

では、現状はどうかと申しますと、社会移動(都市への人口集中)は、大都市ほど益々減少する傾向にあります。都市にとって最も大きな要素である人口動態が大きく変化している(人口減少と高齢化の進行)にも拘わらず、都市行政の制度面ではほとんど変わっていないということが大きな矛盾点になっています。大都市における人口減



少化はインパクトが大きく、それは個人の所得の伸び悩みと相俟って日本市場全体の縮小につながるということです(現状では回復は見込めない)。一方でアジア全体の人口や所得の伸びは大きく、アジア市場が拡大している中で日本の市場だけが縮小し、日本の国際的なポジションが低下してきているという問題があります。片や内政面では人口減少により30年後には2倍から4倍希薄化した「オフィスや住宅がバラ立ちした街」になると予測されています。地方都市はお年寄りがポツポツと住むまちなりかねない。人口動態により都市のエネルギーが失われていく中で、住宅地を中心部と郊外の集落に集めなおすコンパクトなまちづくり(コンパクト・シティ)が必要であり、それはかつて行った規制行政ではなく、税制や融資によるものになろうかと思います。今後、住宅政策の点では住宅の質によって、また都市政策の点では立地場所によって優遇措置に差をつける政策に変っていくと思われます。更に、中心部での「暮らし」について考えることも重要です。インフラよりも医療、介護、商業機能などが一定エリアに巧く配置されるような計画や、公共施設や土地など不動産の洗い出しと効率的な配置計画も必要です。また、コンパクト・シティでは欧州の都市のようにお年寄りが杖をつきながら「ゆっくり歩いて暮らせるまちづくり」も求められます。「経済活動中心のまち」から「生活機能を重視したまち」に変えていくことは特に高齢者の健康維持に必要であり、医療や介護保険などの財政面にも影響します。

一方、大都市での問題は、国際競争力です。欧米企業のアジアの統括拠点としての魅力では東京でさえシンガポールや香港に劣るという評価が出ています(プラス・ウオーターハウス・クーパーズ社の世界27都市ランキング調査による)。もはやオフィスの数や容積率の問題ではなく、他の面での需要喚起策を考えないといけない。国際会議場がホテルに併設されていないという不便さや、役所の証明書の英文での発行や民間医療保険の求償がスムーズに通る医療機関の数が極めて少ないなど、ビジネスと暮らしの面でのサポートが充実していない(知的資本が整備されていない)点が指摘されています。大都市のもうひとつの問題は、高齢者の率ではなく数が増えることです。2040年には、85歳以上の高齢者は東京と大阪だけで2010年比で約300万人増える見込みです。現在、全国の特別養護老人ホームの定員は約40万人(待機者約40万人)。85歳以上の50%は介護が必要になるとされており、特養施設を増やすのは無理な話で、在宅医療、在宅介護を普及させるしかないという状況です。医療、職、住宅をセットにしたまちづくりが大都市の郊外部での第1の柱です。できるだけ病院に近くに住む、あるいは建物の中に医療施設を併設することによって在宅医療にし、それを拠点にまち全体を在宅に切り替えていくのが大きなポイントです。第2の柱は、未病化です。運動や歩く機会を増やすことで病院にかからなくてもいい状態を維持してもらうわけです。ただ歩道を整備するだけではなく、歩くことが楽しくなるようなまちづくりが必要だと考えています。これは「収入を得るための労働」から「生

き甲斐や健康のための労働」へと「歳をとっても働けるまちづくり」とも重なります。

国際的および内政的観点から日本全体の都市行政と将来の課題について述べてきましたが、関西の現状と将来像について触れますと、大阪は都市全体として方向性が非常に見えにくいのが現状ではないかなと思います。北ヤードの2期工事やリニアもその先が見えてこない。大阪がやりたいと言えばそれを後押しするのが私の仕事であり、個別の都市をどうするかという立場にはないのですが、公共交通がこれだけ発達しているのですから、市なら市全体でどうするかを考え、全体を見渡して個別のハードを配置していく必要があるのではないかと、リニアが出来たら出来たで、それを使って大阪全体をどう発展させるのかということを官民共にいろいろ議論を重ねて案を組み立てていかねばならないのではないかと考えています。東京圏では民間開発プロジェクトの検討立案の前に、エリア全体の組み立てをどうするかについて協議を行う動きが始まっています。大阪は東京の後追いではなくその更に一歩先の視点で、国際的プレゼンスの高い都市になってほしいと思いますし、それが関西の最大の課題ではないかと思っています。

文責：中山裕雄(60回卒)



甲陽史学会

平成 24 (2012) 年 8 月 25 日(土)午前 9 時半からノボテル甲子園において恒例の甲陽史学会が開催されました。報告者は大阪府文化財センター理事長・前奈良文化財研究所所長の田辺征夫氏(44回)で、テーマは「発掘成果から『平城遷都の詔』を考える」でした。長年にわたる平城宮跡調査の成果を踏まえた、豊富な資料に基づく現

段階の研究到達点を示すものでした。参加者は、37回新井条一郎・長尾武志・森本康資、38回江崎健一郎、41回橋本久、42回下井基安、43回渋谷元・中島利清、44回奥山哲夫・水谷義紀、45回樋渡利秋、62回長野聡・久義裕の他、青木政幸、浅岡俊夫、黒田慶一、田岡春夫・潤子、増田行雄、山内英正の諸氏でした。いつもながら、同窓会本部のご高配にあずかりました。

甲陽史学会のお知らせ

今年度の甲陽史学会は、会員総会の 8 月 31 日(土)午前 10 時から 12 時まで、ノボテルで開催します。報告者は尼崎市立地域研究史料館長の辻川敦氏(59回)、テーマは「昨今の地域史料保存公開と地域史編さん－尼崎市立地域研究史料館での仕事の経験から－」です。

参加自由です。参加希望者は事前に橋本(TEL/FAX 0798-47-8574)までご連絡ください。資料準備の都合がありますので。

甲陽灘サッカー定期戦のお知らせ

サッカー部OBの皆様へ

第 61 回甲陽灘サッカー定期戦は、平成 25 年 9 月 16 日(月)灘高校グラウンドにておこなわれます。9 時開会式、その後、中学校戦、高校戦と続き、昼ごろOB戦、さらに中高B戦となります。各試合御観覧の上、OB戦にもふるってご参加くださいますよう、御案内申し上げます。

第 13 回甲陽学院同窓会ゴルフコンペお知らせ

日 時：平成 25 年 10 月 27 日(日)

午前 8 時集合 午前 8 時 30 分スタート

場 所：武庫ノ台GC

(神戸市北区：西宮北ICよりR176経由約15分)

連絡先：甲陽同窓会ゴルフ会事務局、下記の何れかに連絡下さい。

中村貞三(35回卒) E-mail: teisan@d4.dion.ne.jp

吉井友実(54回卒) E-mail: yoshii517@hcc6.bai.ne.jp

中山裕雄(60回卒) E-mail: hiroo-na@d5.dion.ne.jp

申込締切：9 月 30 日

陰山	黒岩	林	大倉	松井	永井	芳野	糸田	米山	松浦	岡田	福田	杉森	澤田	小林	平田	津路	志井	矢野	磯野	佐治	田中	原	井上	吉本	川口	浅尾
重雄氏	博氏	輝哉氏	永治氏	信昭氏	隆氏	和人氏	雄三氏	五郎氏	一雄氏	勲美氏	律氏	恒夫氏	悦男氏	允氏	洋一氏	安夫氏	俊明氏	三郎氏	孝市氏	優一氏	長雄氏	淳三氏	敏郎氏	政勝氏	宏平氏	慶利氏
(高商4)	(高商2)	(57回)	(47回)	(45回)	(44回)	(40回)	(38回)	(36回)	(36回)	(36回)	(34回)	(34回)	(34回)	(34回)	(33回)	(30回)	(28回)	(25回)	(23回)	(20回)	(18回)	(17回)	(17回)	(15回)	(14回)	(11回)
12年10月26日	9年12月28日	13年1月13日	13年3月18日	11年1月4日	12年11月7日	12年10月25日	13年5月29日	13年1月29日	13年4月10日	11年	12年2月	12年6月	13年2月	12年11月	13年1月15日	12年10月9日	12年10月3日	12年5月31日	13年3月8日	13年2月1日	13年3月8日	12年12月31日	13年3月5日	12年5月18日	12年11日	12年8月

事務局では左記会員の逝去の報に接しました。謹んで哀悼の意を表します。

計 報

(平成 25 年 5 月 31 日現在)

告 知 板

☆「ノホテル甲子園」の優待券 ☆

甲陽学院同窓会会員用に「宿泊15%割引」「レストラン&バー 10%割引」の優待券を発行していただいています。2013年12月30日までの優待券が事務局にありますので、ご希望の方は、お手数ですが、事務局までお電話・FAX・Eメールにてご請求ください。

☆ ご注意！住所・電話番号の問い合わせ ☆

最近、「甲陽学院同窓会」や「甲陽高校事務局」の名前を騙り、同窓生の携帯番号や住所、メールアドレスなどを問い合わせる電話がかかっているようです。

現在、同窓会や母校でそのような調査活動をしている事実はありません。

皆様には、先方の名称・住所・電話番号などをご確認いただき、慎重な対処をお願いいたします。

☆「会報・甲陽だより」の原稿募集 ☆

*次号・第89号は、来年2月末頃に発行を予定しています。

*「会員だより（同期会・クラス会）」・「運動部・文化部のOB会だより」・「詩・短歌・俳句の発表」・「クラス会・同好会・研究会等の連絡」などのご投稿をお待ちしています。

*原稿の締切日は、来年1月10日です。

☆ 新卒者の終身会費制度 ☆

今年高校を卒業した94回生の皆さんは、卒業時点で終身会費を納めることを選択できます。

また、これに伴い、卒業後7年以内の方（卒業時に7年分の年会費を前納）でも、ご希望により終身会費制に移行していただけるようになっています。その際の金額はP.3の表をご覧ください。

今すぐご予約を！ 夏の会員総会申込方法

日 時 平成25年8月31日（土）

第1部 13時～14時45分

第2部 15時～16時30分

会 場 ノホテル甲子園 TEL0798-48-1111

西宮市甲子園高潮町3-20

阪神電車甲子園駅西口下車すぐ

会 費 一般会員 6,500円（当日会費）

学生会員 2,000円（当日会費）

同伴家族 2,000円（当日会費）

新卒者（平成25年3月卒業94回生）無料

申込方法 同封の振込用紙で、8月21日（水）までに会費をお振込み下さい。

または8月26日（月）までに事務局へ参加のご予約を下さい。（葉書、電話、FAX、メールにて）

ご予約の場合は特別割引として、一般会員は6,000円、学生・同伴家族は1,500円とさせていただきます。

※当日の料理・名札の準備がありますので、できるだけ事前振込かご予約をお願いいたします。

申込先・問い合わせ

甲陽学院同窓会事務局

〒662-0096 西宮市角石町3-138

T E L 0798-71-4888（月・水・木・金 10時～16時）

F A X 0798-71-4890

メール fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp

※8月10日～19日は母校の夏期閉鎖期間となるため同窓会事務局も閉鎖となります。

☆まだまだ暑い頃ですので、当日はカジュアルな服装でご参加ください。

☆平成15年の役員総会の決議で、新卒者以外の無料会員の制度が廃止になりました。上記の会費で運営いたしたく、ご了承下さいますようお願い申し上げます。